

国際柔道連盟試合審判規定の変更点（2017）

① 試合時間

- 男女共に試合時間を 4 分とする。

② スコア

- スコアは、「一本」と「技あり」のみとする。
- 「技あり」には、今までの「有効」も含まれる。
- 「技あり」2 つでも、「一本」と同等とはしない（“合わせ技一本”の廃止）。

③ 抑え込み時間

- 「技あり」10 秒、「一本」20 秒とする。

④ 勝敗について

- 「一本」や「反則負け」がなく、規定試合時間（4 分）が終了した場合、スコア（技あり）の数にて勝敗を決定する。

⑤ ゴールデンスコア

- 規定試合時間が終了した時点で、両試合者にスコアがない場合、もしくはスコアが同等な場合、その試合はゴールデンスコアに突入する。
- ゴールデンスコアに入る前の規定試合時間内に与えられたスコア、ならびに「指導」は、引き続きスコアボードに反映される。
- ゴールデンスコアの勝敗は、スコアもしくは指導の差によって決定される。

⑥ 罰則

- 指導 4 ではなく、指導 3 にて反則負けとなる。
- 袖の中に指を入れる行為は、現行通り「指導」を与える。
- ピistolグリップ、ポケットグリップ、クロスグリップ、片襟（両手で片襟を握る）、帯を握るなどの標準的でない組み方については、取が攻撃を準備している限りは指導を与えない。
- 攻撃をしようとしなない、防御姿勢などについては厳しく「指導」が与えられる。
- 投技を準備するのに時間がかかることもあるため、組んでから攻撃を掛けるまでの時間を以前の 25 秒から概ね 45 秒に延長し、それまでに技がない場合は「指導」を与える。
- 帯より下を掴む行為については、1 回目は「指導」が与えられ、2 回目は「反則負け」が与えられる。

**※本資料の内容は 1 月 7 日時点の情報に基づき作成してあります
今後 IJF の検証次第で変更となる可能性があります**

国際柔道連盟試合審判規定の変更点（2017）

- 取が攻撃をして受を投げる時に受が取の脚を持って防御した場合には、以下のとおりとする。

取の投技が「一本」だった場合：「一本」の宣告のみ

取の投技が「技あり」だった場合：「技あり」を与えた後、受に「指導」を与える

取の投技がノースコアだった場合：受に「指導」のみを与える

⑦ 安全性

- 背中が畳に着くことをブリッジして回避する行為には「反則負け」が与えられる。
- 投げられた際、受が両肘で着地し背中が畳に着くのを防いだ場合、取に「技あり」が与えられる。
- 脇固で相手に逃げる余地がないほど一気に立ち姿勢から倒れこむ行為や、両手で相手の袖または腕を掴み肘を伸ばす袖釣込腰などを施した場合には、相手に危害を与える危険な行為として「反則負け」とする。
- 柔道精神に反するような行為は直ちに罰せられる。
- 「反則負け」に関しては、主審、副審、ジュリーが協議し、満場一致の場合のみ与える。

⑧ 投技と返し技

- 取の攻撃に対して受が返し技を施した場合、自身の体が先に着地した選手が投げられたこととする。
- 着地後のいかなる行為も寝技とみなす。
- 取の技を受が完全にブロックした後に受が捨身技を施した場合は、返し技とは判断しない。

⑨ 柔道衣

- より効率的に、より良い組み手を行えるように柔道衣の上衣はきつく縛った状態の帯の中に収まっていなければならない。選手は、（柔道衣が乱れた場合、）主審が「待て」を宣告してから「はじめ」を宣告するまでの間に、上衣と帯を素早く直すこと。

⑩ ワールドランキングポイント

- （各種大会で与えられる）ポイントは変更されたので近日中に発表される。
- ジュニア：世界ジュニア選手権大会に限り、ジュニア大会では唯一、シニアワールドランキングのポイントが与えられる。

新ルール試験的導入期間：2017年1月～8月（ブダペスト世界選手権）

**※本資料の内容は1月7日時点の情報に基づき作成してあります
今後IJFの検証次第で変更となる可能性があります**